

事項五 米国移民法ノ排日性

一八一 一月四日 在桑港牛島日本人会会長等ヨリ
小池政務局長宛

米国ノ排日の移民法案ニ関シ珍田大使ニ提出

ノ意見書送付ノ件

附属書 右意見書写

(一月二十日接受)

謹啓仕候然バ今回米国議會ニ提出セラレタル移民法案ノ条
項中ニハ直接間接ニ日本ノ休戚ニ関スル者有之小生等憂慮
ノ余十二月二十一日附ヲ以テ別紙ノ如キ意見書ヲ珍田大使
ニ提出致候就テハ同意見書ノ謄本一部御高覧ニ供シ候間御
意見次第ニテ外務大臣トモ御協議被下可然御処置被下度伏
而奉願候 敬白

大正三年一月四日

牛島 謹 爾
藤 平 純 三
安孫子 久太郎
池 田 五 六

言フ迄モナク日本人及ヒ其ノ他ノ東洋人ヲ排斥スルノ目的
ニ出テタルモノナリ尤モ東洋諸國中ニハ未タ文明先進ノ列
強ト伍スル能ハサルモノアレバ米国移民法ガ斯ル劣等国ニ
対シテ区別の待遇ヲ為スハ止ムヲ得ザル次第ナレドモ既ニ
文明先進國ノ伍班ニ入レル日本ヲ待ツニ他ノ劣等国ヲ待ツ
ト異ナル処無キハ決シテ公平ノ処置ニ非ス是レ不肖等ノ默
過スル能ハザル所以ナリ

右区別の待遇ヲ規定シタル条項中ニハ「現行又ハ今後成立
スヘキ旅券ニ関スル条約協約覚書等ニヨリ反对ニ規定セラ
ルル場合ハ此ノ限ニ非ス」トノ但書アレバ日米間ニ所謂
「紳士の協約」ノ狹隘ナル範圍内ニ於テ日本移民ノ入国ヲ
許スベキハ勿論ナレドモ元來彼ノ紳士の協約其ノモノハ邦
人ノ等シク不滿トスル処ニシテ之ヲ撤廢スルノ時機一日モ
早カラム事ハ万人ノ切望スル処ナリ然カモ一朝新移民法ノ
制定ニ依リ原則トシテ日本人ノ入国ヲ拒絶シ僅カニ「紳士
的協約」ニヨリテ之ヲ除外ヲ設クルコトトナラハ不公平ナ
ル紳士協約ヲ解除スルノ時機ハ永久ニ來ルコトナカラン何
トナレハ該協約ガ撤回セラルルノ曉ニハ新移民法ノ差別的
規定ハ直ニ日本ニ適用セラルル事トナルベケレバナリ而シ

外務省 河上 清
小池政務局長殿閣下

(附属書)

在桑港日本人会会長等ヨリ珍田大使ニ提出ノ意見
書写

謹而以書面致啓上候然者今期ノ中央議會ニ十余通ノ移民法
案提出セラレ其条項中ニ大ニ日本ノ利害ニ関スルモノ有之
候之ニ関シテハ要路既ニ一定ノ方針可有之門外者ノ呶々ヲ
要セザルハ言フ迄モ無キコトト存候得共不肖等在米邦人將
來ノ休戚ヲ慮リ日米問題ノ解決ヲ念トスルノ余リ茲ニ加州
並ニ太平洋沿岸在留邦人一般ノ意向ト認ムベキモノヲ陳述
シテ閣下ノ御高覧ヲ煩ハシ候次第ニ御座候

目下上下兩院ニ提出中ナル十余通ノ移民法案中最モ有力ナ
ルハ上院ノ「デリンガム」案ト下院ノ「バーネット」案ト
ノ二ナリ而シテ此ノ兩案トモ「現行法律ニ依リ帰化スルノ
權利ナキ外国人」ノ入国ヲ禁止スルノ規定アリ此ノ規定ハ

テ該差別的規定ニシテ一旦新移民法中ニ挿入セラルタル以
上ハ他日日米兩國カ紳士の協約ヲ撤廢スルノトキニ至リテ
該規定ヲ移民法中ヨリ刪除スル事ハ至難ノ事ニ属ス是レ不
肖等カ新移民法ノ未タ制定セラレサルニ当リテ早ク適宜ノ
処置ヲ取り排日ヲ意味スル差別的規定ノ同法中ニ挿入セラ
ルルヲ予防センコトヲ欲スル所以ナリ

不肖等ハ日米国交ノ現状ニ鑑ミ日本移民ニ関スル制限ヲ全
然撤廢スルノ不可能ナルヲ認ム故ニ不肖等ハ今日直ニ紳士
的協約ノ解除ヲ要求スルニ非ス唯移民法ガ日本人ニ与フル
ニ対等の待遇ヲ以テシ以テ日本ガ文明先進ノ列國ト班ヲ同
フスルノ事實ヲ認識センコトヲ希望スルニ過ギズ若シ新移
民法中ヨリ「帰化權ナキ外国人ノ入国ヲ許サズ」トノ差別
的規定ヲ刪除シ原則トシテハ人種の國民ノ區別ヲ問ハズシ
テ平等ニ入国ヲ許スコトトシ更ニ但書ヲ設ケテ「現行又ハ
將來ニ成立スベキ条約協約覚書等ニヨリ入国制限ノ規定ヲ
設クル場合ハ此限ニ非ス」ト言ハバ現行支那人排斥條約ノ
如キハ新移民法ニヨリテ無効トナルコト無ク日本移民制限
ヲ目的トスル紳士の協約ノ如キモ少クトモ当分ハ何等ノ影
響ヲ被ルコトナカルベシ要スルニ不肖等ノ希望スル処ハ原

則トシテ日本人ニ対スル平等の待遇ヲ要求シ以テ他日紳士の協約ヲ撤廃スルノ地歩ヲ作ラントスルニ在リ

上院ニ提出中ナル「デリンガム」案ニ依レハ「一會計年度中ニ入國ヲ許スヘキ各外國ヨリノ移民數ハ現ニ米國ニ在住スル各外國人數ノ百分ノ十ヲ超過スルヲ得ズ」トノ規定アリ換言スレバ現在ノ外國人數ノ百分ノ十ヲ超エザル範圍ニ於テ移民ノ入國ヲ許ストノ規定ナリ例ヘバ現在ノ在米邦人ノ數ヲ八万トスレバ毎年八千ノ日本人ノ入國ヲ許スコトトナルベシ然レドモ日本ニシテ新移民法ノ恩惠ニ浴セント欲セバ一面ニ於テハ前段陳述セル差別的規定ヲ同法中ヨリ刪除シ他ノ一面ニ於テハ紳士の協約ヲ撤廃スルノ機會ヲ作ラザルベカラズ差別的規定ノ刪除ハ目下ノ急務ニシテ紳士の協約ノ撤廃ハ第二ニ來ルベキ問題ナリト信ス

更ニ之ヲ論理ノ上ヨリ考フルモ曩ニ加州土地法ニ極力反対シタル日本ハ今回ノ移民法案ヲ默過スベキ理由無シ加州土地法ト言ヒ新移民法ト言ヒ帰化權ナキ外國人ニ向テ差別的規定ヲ設クルハ其筆法ニ於テ其ノ精神ニ於テ彼此毫モ異ナル処ヲ見ズ然カモ前者ニ向テハ反対シ後者ニ対シテハ一言ノ抗議スル処無キハ論理ノ徹底ニ非ズ加州知事「ジョンソ

ン」氏ハ土地法ニ対スル日本ノ抗議ヲ批難シテ曰ク「日本ハ土地法ニ反対スル前ニ何故ニ差別的規定ヲ設ケタル新移民法案ニ反対セザリシカ」ト至言ニ非ズト曰フヲ得ルカ加州土地問題ハ今尚日米兩國間ノ懸案トナリテ之カ解決ノ期未タ知ルベカラズ外交ノ事ハ元ヨリ不肖等ノ窺知スル能ハザル処ナレドモ土地問題ニシテ終ニ日本ニ満足ナル解決ヲ見ルノ望ナシトセバ寧ロ一步ヲ譲リテ同問題ニ対スル我が要求ヲ撤回シ之カ報償トシテ米國ヲシテ新移民法中ヨリ差別的規定ヲ刪除セシムルモ亦不可ナラサルガ如シ若シ斯ノ如キ交換條件ニ依ラズシテ土地問題ヲ解決スルノ方法アラバ吾人ノ素ヨリ満足スル処ナレドモ不幸ニシテ然ラズトセバ在留邦人ハ寧ロ土地問題ニ關スル要求ヲ放棄シテ新移民法中ノ差別的條項ヲ刪除シ以テ他日満足ニ移民問題ヲ解決スルノ地歩ヲ作ランコトヲ希望スルモノナリ惟フニ大統領「ウィルソン」氏國務卿「ブライアン」氏ノ如キモ極力加州土地法中ノ差別的規定ニ反対セルノ人ナリ新移民法中ノ差別的條項ニ対シテモ必スシモ日本ノ主張ニ反対セザルベシ加之土地問題ガ兩國ノ懸案トナリテ毫モ解決ノ望ナク為メニ日米ノ國交ニ好マシカラザル影響ヲ及ボシツツアルハ米

大正二年十二月二十一日

在加州

池田 五六
安孫子 久太郎
藤平 純三
河上 清
牛島 謹爾

在米

特命全權大使子爵 珍田捨己殿

一八二 一月二十七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國下院ニ提出セラレタル「レーカー」案等
ノ移民法案ニ対スル労働長官ノ意見書ニ付報

告ノ件

第二三号

加州選出下院議員 Raker カ昨年四月七日提出セル移民法案(昨年六月十七日附機密拙信第三四号記載第六HR一〇二)ニ關シ下院移民委員長 Burnettノ要求ニヨリ本月二十日附下院議長ニ与ヘタル労働長官 Wilson 氏ノ意見書本月

國政府ト雖モ憂慮シツツアル処ナルベシ故ニ此際新移民法ノ制定ヲ機トシテ前述ノ如キ交換問題ヲ提出シ以テ土地問題ノ局ヲ結ブコトハ米國ノ必スシモ反対セザル処ナルベシ以上ハ不肖等ノ卑見希望ニシテ又太平洋沿岸在留邦人一同ノ希望ト見ルモ差支ナカルベシト愚考仕候勿論新移民法案修正ノ運動ハ極メテ周到ノ注意ト慎重ノ態度トヲ必要トスルハ不肖等ノ認ムル処ニ有之漫然輿論ニ訴ヘテ世間ノ耳目ヲ聳動スルコト土地法當時ノ如クナルニ於テハ却テ數ヲ突テ蛇ヲ出スノ結果ヲ來タスヤモ知ルベカラズ故ニ運動ノ方針等ニ關シテハ委曲閣下ノ御高教ヲ仰キ度懇願ニ堪ヘザル次第ニ御座候不肖等愚考スル処ニヨレバ目下東部滯在中ナル京都同志社教授「ギウリック」博士及「インデペンデント」社ノ「ホールト」氏「アウトルック」社ノ「メービー」氏日本協會ノ「ラッセル」氏等ニ書ヲ寄セテ其ノ援助ヲ求ムルコト適宜ノ処置ニ非ズヤト存ゼラレ候然レドモ閣下ニ於テハ既ニ此問題ニ關シテ米國当局者ト御交渉相成候様ノ事情有之候ハバ局外者ノ容喙或ハ却テ閣下ノ御交渉ノ妨碍トモ相成候ハンカト懸念仕候此点ニ關シテモ至急何分ノ御教示ヲ仰キ度伏シテ奉願候敬白

二十三日右委員会ニ交附セラナリ同意見書ハ右 Raker 案並ニ Humphrey (客年六月二十七日附公第一三八号拙信参照) 及 Church ノ (加州選出下院議員) 提出各案都合三案ニ対スルモノニシテ稍々長文ナルカ要スルニ主トシテ印度人排斥ノ急務ナルヲ説キ一般亜細亜人排斥ニ及ヘルカ特ニ日本人ニ対シテハ旅券ニ関スル現今取極ニ依ル移民即チ Burnett 案 (昨年十二月二十二日機密六十五号参照) 中ニ在ル如キ除外規定ヲ設クヘシト述ヘ終リニ移民総監ノ意見ナリトテ移民入国ニ際シテ当国軍隊兵員募集ノ際適用セルト同一ノ体格試験ヲ行フモ亦一案ナルヘシト附言セリ尚右意見書劈頭ニ於テ労働者ハ右 Raker 案ノ如キ法案ニヨリ此際亜細亜人問題ヲ一括決定スルノ勝レルニ如カスト思考スレトモ縦シ Raker 案議會ヲ通過スルトモ法律トシテ成立スル迄ニハ時日ヲ要スルコト必然ナレハ此ノ際臨機ノ措置トシテ前頭 Humphrey 案又ハ Church 案何レカラ通過セシメンコトヲ切望スト掲ケ居レリ

註 旅券ニ関スル日米間ノ現行取極ハ所謂紳士協約ト称セラルルモノニシテ該取極ニ付テハ日本外交文書第四十卷第三冊二〇七二頁、二〇八二、二一一八及二一九九ノ各文書並第三四十一卷第二冊一五九八及一六〇五ノ各文書参照

一八三 一月二十七日

在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国下院ノ移民法案ニ対スル労働長官ノ意見

二付國務長官ニ異議申入ノ件

第二五号

往電第二四号ニ関シ往訪ノ節^(註)日米通商航海条約改訂ノ際移民問題ニ関スル我宿望ヲ貫徹センカ為メ帝國政府カ難キヲ忍ヒテ幾多ノ犠牲ヲ払ヒタル沿革ヲ説明シ此際責任アル閣員中ヨリ此次ノ如キ意見即チ仮令日本人ニ関シ特別除外規定ヲ存スヘシトナスモ原則トシテハ他ノ一般亜細亜人種ト同視スル法案ヲ勸奨スルカ如キハ正ニ右沿革ヲ無視スルモノニシテ更ニ体格検査ノ一点ニ至リテハ只表面ヲ繕ヒ其實日本人排斥ノ実ヲ挙セントスルニアルコト勿論ニシテ甚シキ背信ノ所為ナリト云ハサルヘカラスト詳論シ特ニ前掲条約改訂ノ際ニ於ケル事情ニ付國務長官ノ慎重ナル注意ヲ促シタルニ國務長官モ大体ニ於テ本使ノ所論ヲ諒トスルモノノ如ク協約ノ件モ差懸リタル此際帝國政府ヨリ公然公式ニ抗議ヲ提出セラルル如キハ頗ル好マシカラサルモ右労働長官ノ意見並ニ同書中ニ掲ケタル諸法案ニ対シ異議ノ要点

提出シタリ尚 Church 案等一括郵送スヘシ右為念申添ユ

註 此ノ往訪ハ一月二十五日ナル趣旨ノ外務省係官ノ書入アリ

一八四 二月一日

在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国移民法案ニ対スル抗議提出ハ加州土地法

關係ノ日米協約交渉ヲ妨ケサル為暫ク見合せ

可然哉請訓ノ件

附記 一 大正二年十二月十五日牧野外務大臣ヨリ在米国

珍田大使宛電報第二八五号

「バーネット」移民法案ニ付問合ノ件

二 大正二年十二月十七日在米国珍田大使ヨリ牧野

外務大臣宛電報第三四〇号

「バーネット」移民法案ノ修正ニ付回報ノ件

三 大正二年十二月二十日牧野外務大臣ヨリ在米国

珍田大使宛電報第二八七号

米國議會ニ提出ノ移民法案中不都合ノ条項ニ付

米國当局ノ注意喚起方訓令ノ件

四 「バーネット」移民法案調書

第三五号

一月三十一日下院ハ Burnett 案ヲ本會議ニ附シタルモ討

論終結セス二月二日ニ延期セラレタリ又同日第一回會議ヲ開キタル上院移民委員会ハ上院議員 Smith 提出案及前記「バーネット」案ヲ審査シタルガ移民立法ニ関シテ其執ルヘキ方針ヲ決定スルニ先チ本件ニ対スル大統領ノ意見ヲ聴取センコトヲ委員長「スミス」ニ委托シテ閉会セリ同氏ハ下院移民委員長「バーネット」ト共ニ兩三日中ニ大統領ニ會見ノ筈ナリト云フ

十数個ノ移民法案中不都合ト認ムル規定ニ対スル帝國政府ノ抗議書ハ予テノ訓令ニ依リ時機ヲ見計ヒ提出スル為メ夙ニ用意シ置キタルモ協約締結交渉上ニ累ヲ及ホサムコトヲ憂慮シ往電第二五号ノ異議申入ノ外ハ提出方差控ヘ居タル次第ナル処移民法案ノ審議前述ノ程度ニ進ミ来リタルニ付移民立法ニ関スル方面ヨリ見ルトキハ國務長官希望ノ通同官手許迄公然トナク早速抗議ヲ申入レ置ク方有利ナリト信スルモ翻テ考フルニ協約締結交渉モ目下洵ニ微妙ノ域ニ達シ居ルニ付仮令協約締結ノ件トハ全ク別問題ナリトシテ此際抗議ヲ提出スルモ尚ホ協約締結ノ円満ナル進捗ヲ妨クル懸念ナシトセサルガ故ニ先方ニ於テハ兩者相關聯セシメ調整ヲ試ムル意味合ニテ何等カノ折衷の妥協ヲ申出来ルヤモ

貴電第二八五号ニ関シ「バーネット」移民法案ハ委員会ニテ修正ノ上十二月十五日下院本會議ニ報告セラレタリ而シテ右修正ハ本邦人入国ニ対シ特別ノ影響ナシト思ハル、モ為念左ニ其大要ヲ記スヘシ

(本年六月二十六日附機密第三六号拙信参照)

修正案、第三案中五頁八行目 affiliated ノ後 or who advocate or teach the unlawful destruction of property 又十五行目 official character ノ次ニモ同一ノ文句并ニ七頁四行目 engineers ノ前ニ civil ナル文字ヲ挿入シ又同行 editors 五行目 journalists 及 bankers ヲ削リ第十九条ニ於テ追放サルヘキモノ、内ニ財産破壊無政府主義等ヲ説クモノ内乱者ヲ加ヘタルモノナリ該修正案ハ最近便ニテ郵送スヘシ

(附 記三)

大正二年十二月二十日牧野外務大臣ヨリ在米国珍

田大使宛電報

米國議會ニ提出ノ移民法案中不都合ノ条項ニ付米

國當局ノ注意喚起方訓令ノ件

第二八七号

五 米国移民法ノ排日性 一八四

計リ難シ

前陳ノ如キ場合ニ付現下交渉中ノ協約成否今一層判明ニ至ル迄抗議書提出ヲ見合ハス方可然ト思考スルモ此儀ニ付今一応御電訓アリタシ

(附 記一)

大正二年十二月十五日牧野外務大臣ヨリ在米国珍

田大使宛電報

「バーネット」移民法案ニ付問合ノ件

第二八五号

下院議員「バーネット」提出移民法案ハ委員會審査ノ後本月十五日下院本會議ニ報告サルベシトノ新聞電報ハ事實ナリヤ右委員會通過案中本邦人入国ニ影響アルベキ規定ノ要領トトモニ回電アレ

(附 記二)

大正二年十二月十七日在米国珍田大使ヨリ牧野外

務大臣宛電報

米國下院本會議ニ報告セラレタル「バーネット」

移民法案ノ修正ニ付回報ノ件

第三四〇号

貴電第三四〇号ニ関シ

通機密第一〇二号往信ノ主旨ニ從ヒ第一歸化權ナキ外國人ヲ原則トシテ拒絶スルコト第二歸化ノ意志ヲ表示セル外國人ニ入国稅ヲ免除スルコト第三運送船ニ移民官又ハ医官ノ乗込ムコトノ三点ニ関シ米國政府ノ注意喚起方十分御心掛ノコト、ハ信スルモ日米協約商議ノ關係モアリ又法案今後ノ經過ニモ依ル儀ニツキ其辺考量ニ入レラレ極テ適當ノ機會ニ於テ懇談の必要ノ注意ヲ与ヘラル、様致シタシ右為念

(附 記四)

「バーネット」移民法案調書

(大正三年一月外務省作成)

合衆國議會下院ニ於テ客年十二月十五日本會議ニ報告セラレタル移民法案ヲ「バーネット」氏提出案ト為ス同案ハ客年六月十六日提出セラレ當時委員會ノ審査ニ附托セラレタルモノナルガ今回修正ヲ經タル後委員會ヨリ報告セラレタルナリ今本法案規定中本邦人ニ直接影響アルベキモノヲ列挙スレバ左ノ如シ

一、合衆國市民タルノ意思表示ヲ法律ノ規定ニ遵ヒ為シ

タル外国人ニハ入国税ヲ免スルコト

二、現行法ノ下ニ帰化ニヨリ合衆国市民タルヲ得ザル外人ハ入国スルヲ得ザルコト

三、外国移民ヲ運送スル船舶ニ米国移民官又ハ検査医官ヲ乗船セシメ米国々法ニヨリ職務ヲ執行セシムルコト

年齢十六歳以上ノ渡来移民ニ教育試験ヲ為スノ規定ハ本法案ニモ挿入セラレタルガ其用語ヲ英語又ハ各国語或ハ方言ト為シ受験者ハ其用語ヲ選択シ得ルコト、為シタレバ本邦人ハ不便ヲ感ズルコト無シ次ニ原則トシテ帰化権無キ外人ノ入国ヲ許サザルノ規定ハ但書ヲ以テ旅券ニ関スル現存協約若クハ将来締結サルベキ条約ニヨリ其然ラザルベキ旨ヲ定メタルモノハ此限ニ非ズトノ例外ヲ設ケタリ
右ニ対シ「オヴァーマン」案ノ場合同様米国政府ノ注意ヲ喚起スヘキ旨大使へ訓令セリ

一八五 二月六日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

米国議會ニ於ケル重ナル移民法案審議状況

合ノ件

第四六号

貴電第三五号ニ関シ貴電第四三号^(註)及ヒ新聞電報ニヨレハ其後諸法案中重要ナル点ニ変更アリタルモノ、如シ就テハ重ナル移民法案ノ審議最近ノ模様更ニ御電報ヲ待テ何分訓令スヘシ

註 珍田大使来電第四三号ハ前掲二九文書

一八六 二月六日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーネット」移民制限法案米国下院通過ノ

件

第四四号

昨年十二月十六日修正意見ヲ附シテ下院移民委員会ノ報告セル Burnett 移民制限法案一月三十日下院全院委員会ニ附議セラレ五日間討議ノ末二月四日午後終結多少ノ修正アリタレトモ大体原案ノ儘ニテ直チニ下院議事ニ移サレ三読會ヲ經反對派議員ヨリ詭方試験ニ関スル規定ヲ削除スヘキ命令ヲ附シ移民委員会ニ廻附スヘシトノ動議出テタルモ否決サレ直チニ全案ノ採決ニ移リ百五十二對百二十六ニテ通過セリ本案ノ討議ニ於テ最モ論争ヲ極メタル点ハ詭方試験ニシテ次ハ亜細亞移民排斥ナリシカ第一点ニ就テハ關係規

一八七 二月十三日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

「バーネット」案ニ対シ我方異議ノ点ヲ書面

ニ認メ國務長官ニ内示スル様訓令ノ件

第五四号

貴電第四四号ニ依レバ「バーネット」案ハ大体原案ノ儘下院ヲ通過セル趣ノ処今後上院ノ態度並ニ大統領カ詭方試験其他ニ関シ裁可ヲ拒否スル事ナキヤ等前途尙遑遠ナルカ如キモ兎ニ角既ニ下院ヲ通過シタル以上ハ形勢ノ變化其他ニ基キ何等御異論ナキ限り貴電第二五号ノ通当方異議ノ点ヲ書面ニ認メ國務長官ノ希望ニ從ヒ同長官ニ内示シ其注意ヲ喚起セラルベシ

一八八 二月十七日 在桑港沿野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国移民總監ガ上院委員会ニ於テ本邦人移民

排斥ノ言説ヲ為セル旨ノ新聞報道ノ件

別電

同日在桑港沿野總領事代理宛牧野外務大臣宛電
報第四二号別電
右新聞報道ハ虚報ナル件

第四二号

合衆国移民総監二月十三日上院委員会ニ於テ東洋人移民問題ヲ外交手段ニ依リテ解決スルヲ手緩シトナシ同移民禁止法制定ノ必要ナルコト且其太平洋沿岸一般ノ希望ナルコトヲ説キ日本人移民ノ好マシカラサルコト在留日本人数力過去六年間ニ倍加シタルコト及加奈陀墨西哥国境ヨリ密入スルモノ非常ニ多キコトヲ説明シタル旨華盛頓電報トシテ新聞紙上ニ散見セルニ対シ当州有力ノ米国人ヲ説キ彼等ヲシテ華盛頓ニ於ケル相当ナル方面ヘ「プロテスト」ヲ送ラシムルノ可否「ガイ」氏ノ希望ニヨリ在華盛頓沼野領事ニ問合せタルニ十六日別電ノ通返電アリ因ニ十七日華盛頓発新聞電報ニ依レハ Caminetti 氏ニ於テ前記新聞記事ヲ公然否認セル由ナリ

(別電)

二月十七日在桑港沼野總領事代理発牧野外務大臣宛電報

前記新聞報道ハ虚報ナル件

第四二号(別電)

貴電第一号ニ関シ二月十六日移民総監ニ面会ノ節同氏ハ自

ラ進テ過般二月十四日諸新聞紙上ニ伝ヘラレタル同氏ノ排日の言説ニ言及シ右ハ全然無根ニシテ該委員会ハ「ヒンズー」入国ノミニ付審議セシノミニシテ日本人云々ノ如キハ自分ノ夢想セサリシ所ナリ自分ハ該記事ヲ見ルニ及テ寧ロ其ノ捏造ノ極テ意外ナルニ驚クノミ貴官ニ於テモ当国新聞中往々斯ノ如キモノアルハ御知悉ノ通り自分ヲ信シ御諒察ヲ請フ云々ト語レリ右ニ付「ガイ」氏前電ノ遊説ハ暫ク其必要ナキモノト認メラル

右大臣ヘ電報アリタシ

註

右ハ華盛頓出張中ノ沼野領事ヨリ在桑港日本總領事館宛電報ヲ外務大臣ニ転電シタルモノナリ

一八九 二月二十七日

在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国移民諸法案ニ対スル抗議覚書及「バーネット」移民法案ニ関スル非公式書面ヲ國務長官ニ手交並朝鮮人ノ渡米取締ニ付具申ノ件

第七一号

貴電第五四号御訓令ノ実行方ニ付協約案並ニ移民法案ノ形勢ニ鑑ミ二月二十六日國務長官ヲ往訪シ移民法案ニ対スル

帝國政府反対意見ノ大体ハ既ニ口頭ヲ以テ申述ヘ置キタル所ナルカ右ニ関スル書面提出ハ同長官ノ希望ニ顧ミ是迄見合セ居リタルモ上院移民委員会ニ於ケル「バーネット」案ノ審議ハ益々進行ノ模様ナルヲ以テ此上尚遷延セハ時機ヲ失フニ至ランコトヲ懸念シ今日之ヲ提出スル次第ナリト述

ヘ且往日ノ打合セ通り同長官ニ於テ有益ト思料セラルル場合ニ適宜之ヲ処分セラレ度旨附言シテ予テ御訓令ノ趣旨ニ依リ調製シ置キタル移民諸法案ニ対スル抗議覚書ヲ同長官ニ手交シ同時ニ「バーネット」案規定中同長官ノ注意ヲ促シ度諸点ヲ詳細陳述セル全然非公式ノ書面ヲ(内示スル?)ニ外ナラスト断ハリテ手交シタリ尚「バーネット」案第一節所載「旅券ニ関スル現行約束及ヒ将来締結セラルルコトアルヘキ条約協約及ヒ約束云々」ノ文句ハ其意義明瞭ヲ欠クノ嫌アルコトヲ今回特ニ指摘シ置キタリ覚書及書附写郵送ス國務長官ハ受ケテ通読シタルモ別ニ其所見ヲ述ヘサリシカ只簡單ニ帝國政府ハ日米条約特ニ第一条ノ入国權利ハ朝鮮人ニモ適用セラルルモノト解シ居ルヤ又渡米朝鮮人ニ対スル旅券発給方ニ付日本内地人ト同様ニ取締ヲナスコトヲ得ヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ何レニ対シテモ積極的答

弁ヲ与ヘタリ長官ハ質問ノ理由ニ付何等語ル所ナカリシモ恐ラクハ朝鮮人ノ渡米取締上當国移民官憲ニ疑念ヲ懷カシメタル事実アリシヤモ計リ難シ曩ニ在紐育總領事発閣下宛一月二十三日附機密第五号ノ如キ事実モ有之ニ付朝鮮人ノ渡米ヲ一層嚴重ニ取締ラルル様致シタシ

一九〇 三月十三日

在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーネット」移民法案中ノ帰化無能力者入国禁止条項ニ対スル我方ノ異議ニ関シ國務長官ト会谈ノ件

第八五号

往電第七一号ニ関シ三月十二日國務長官往訪ノ際同官ハ二月二十六日日本使カ手交シタル移民法案ニ関スル文書写ヲ上下兩院移民委員長等ニ夫々交附シ考量ヲ求メ置キタル旨ヲ告ケ「バーネット」案中帰化無能力者入国拒絶条項ハ實際上全然日本人ニ適用セサル意志ヲ以テ立案セラレタルモノナレハ日本ニ於テ別ニ異議ヲ唱ヘラル、理由ナキニアラスヤト述ヘタルニ付本使ハ該条項ニ但書ヲ加ヘタル來歴ニ顧ミ其精神ガ同官ノ弁解通りナルヲ疑ハスト雖中途右但書用

語ヲ變更シ現行条約ヲ度外視シテ単ニ旅券ニ関スル現行協定ノミヲ存置シタルカ其ノ結果法文解釈上右ニ所謂現行協定ナルモノニ依リ渡航スルモノ、外ハ本項ノ適用ヲ受ケ入国廢絶サル、コト、ナルヘシトノ点ニ付反覆説明シタルニ國務長官ハ直ニ電話ヲ以テ上院移民委員長ニ交渉シタル結果「バーネット」案六頁二十五行末字 existing ト二十六行頭字 agreements トノ間ニ treaties conventions or ノ三字ヲ挿入スルコトニ付同委員長ノ同意ヲ得タリ而シテ同長官ハ右ノ修正ニテ我満足ヲ得タキ旨申出タルニ依リ本使ハ帰化能力ノ有無ヲ標準トシ原則上日本人入国ヲ拒絶スル形式ヲ有スル規定ハ帝國政府ニ於テ主義ニ於テ反対スル所ナルノミナラス加州排日法ノ實歴ニ鑑ミルモ到底同意ヲ表スル能ハサルヘキ旨説明シ此点改竄ヲ求メ且實際問題ノ見地ヨリスルモ仮令前掲但書ヲ右ノ如ク修正スルトモ尚過般手交シタル本使舌代中 a. b. c. (右別電ヲ以テ略陳ス) 丈ハ依然救済出来サルヘシト注意シタル処國務長官ハ之ニ對シ日本人以外ノ外国人入国ヲ取締ル為メ概括の規定ヲ設クルコト極メテ緊要ナルヲ以テ本項自体(帰化無能力者入国禁止ノ点)ノ改竄ハ到底考量ノ余地ナシ既ニ日本人ヲ其

テ本案ノ問題ニ限り我主義上ノ反対ヲ撤回スルコト
右御参考迄申添ユ

一九一 三月十三日

在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーネット」移民法案ニ對スル異議ニ関シ

請訓ノ件

第八六号

往電第八五号ニ関シ二月二十六日國務長官ニ手交シタル本使舌代中「バーネット」案ニ對スル異議主要ノ点トシテ掲ケタルハ前電別電列挙ノ外帰化無能力者ナル形式ノ下ニスル日本人排斥及船舶移民官派遣ノ二点ナルカ尚之レニ對シ御意見アラハ御電訓アリタシ

一九二 三月十三日

在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーネット」移民法案中帰化能力ノ有無ニ

基ク差別待遇ノ主要項目トシテ國務長官ニ指

摘セル条項報告ノ件

第八七号別電

帰化能力有無ニ基ク区別の待遇主要項目

五 米国移民法ノ排日性 一九一 一九二 一九三

ノ適用範圍外ニ置クコト、ナシタル以上ハ日本國政府ニ於テ尚反対サル、ノ理由ヲ見出ス能ハス尤實際問題トシテ注意サレタル各項ニ對シテハ悉ク日本人ノ除外サルヘキコトヲ明ニスル様修正方斡旋スヘク又移民官等乗船ニ関スル規定ノ如キモ削除ニ決シタルヲ以テ帝國政府ニ於テ右ニテ満足シ前記主義上ノ異議ヲ撤回サレンコトヲ希望スル旨縷述セリ依テ本使ハ前同様ノ陳述ヲ反覆シタル上兎モ帝國政府ニ一応請訓スヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ右会谈ニ於ケル國務長官ノ口吻ニ依リ察スルニ帰化無能力者入国拒絶ニ関スル原則の規定ヲ法案ヨリ取除クコトハ到底不可能ナルモノ、如ク認メラルル処右ニ関シ至急何分ノ儀御電訓ヲ請フ本使ノ卑見ニ依レハ右事情ニ鑑ミテ左記二案中ノ一ヲ選フノ外ナシト信ス

甲、区別の原則撤廃ハ到底貫徹ノ見込立タズト雖從來ノ態度及(不明)ノ立場ニ顧ミ此際主義上ノ問題トシテ形式のニ反対ノ態度ヲ保留スルト同時ニ實際問題トシテ前記各項(及其他ニモアラバ夫等ノ点ニ関スル)ノ修正ニ関シ極力米國政府ノ斡旋ヲ要望スルコト

乙、實際問題ニ一層重キヲ措キ此際各種ノ修正ヲ条件トシ

a、入国税賦課(第二条) b、再入国ノ場合ニ於ケル説方ノ有無(第三条第八頁二十一行二十五) c、合衆國ニ住居スル外国人ノ妻子ニシテ入国ノ際伝染病ニ罹リ居ルモノニ對スル特典の取扱有無(第二十二條) d、海員及船舶業ニ對スル区別の取扱(第三十二條其ノ他)

一九三 三月十八日

牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

「バーネット」移民法案中帰化能力ノ有無ヲ

標準トスル規定ニ對スル我方ノ方針ニ関シ回

訓ノ件

第八二号

責電第八五、八六、八七号ニ関シ

帰化能力ノ有無ヲ標準トスル点ニ関シ先方ニ於テ到底我主張ヲ容レサル場合ハ貴官ハ主義トシテ反対ノ態度ヲ保留シ置キ實際問題トシテ existing agreements ヲ existing treaties conventions or agreements 云々ト改メ米國官吏乗船ノ規定ヲ削除シ尚注意ヲ与ヘタル他ノ各項ニ對シテモ先方言明通り夫々日本人ノ除外サルヘキコトヲ明ニスル様修正方御交渉アリタシ尤モ貴電第八七号 a b c 各項ハ何

レモ帰化ノ意思表示ヲ標準トセルニ付是等ノ点ヲ主張セラ
ルルニ当リ自然貴電第七二号ノ問題ヲ惹起シ協約ノ進行ニ
累ヲ及ス事ナキ様御注意アリタシ

註 前掲三五文書

一九四 三月十九日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

「バーネット」移民法案中帰化能力ノ有無ヲ
標準トスル規定ニ対スル我方ノ方針ノ回訓ニ

付國務長官ト会談ノ件

第九〇号

貴電第八二号ニ関シ三月十九日國務長官ヲ往訪前回会談ノ
次第二付請訓シタルニ其回訓ニ依レハ帰化能力ノ有無ヲ標
準トスル原則的規定ニ対スル反対ハ帝國政府ニ於テ從來ノ
態度ニ鑑ミ之ヲ撤回スル能ハサル旨ヲ述ヘ更ニ國務長官ノ
再考ヲ求メタル処國務長官ハ此点ニ関スル日本國政府ノ立
場ヲ諒トスルモ前回ニモ申述タル事情ニ依リ到底再考ノ余
地ナシト答ヘタリ依テ本使ハ本件ニ対スル帝國政府ノ反対
ノ態度ヲ保留スル旨声明シタル上實際問題トシテ区別的待
遇ニ亘ル各項ノ修正ニ関スル國務長官ノ斡旋ニ至テハ帝國

政府ニ於テモ満足シ且之ニ信頼セムトスル所ナル旨ヲ述ヘ
引續キ其尽力ヲ求メタルニ國務長官ハ十分尽力スヘキ旨ヲ
答ヘタリ

一九五 六月二十九日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國議會ニ提出セラレントスル亜細亞人労働

者排斥法案ニ付國務長官ヨリ内示ノ件

別 電

同日珍田大使発加藤外務大臣宛電報第二〇一号
右排斥法案ガ日支人ニ適用ナキ趣旨ノ修正案

第二〇〇号

六月二十五日本使往訪ノ際國務長官ハ今般更ニ亜細亞人勞
働者排斥法案當國議會ニ提出セラルヘキ趣キヲ以テ右提案
者側ヨリ相談アリタルニ付自分(國務長官)ハ日支人ヲ除
外スル趣意ヲ以テ別電ノ通りノ但書挿入方ヲ注意シ置ケリ
ト内話セリ仍テ本使ハ日本人ニ関スル限り日米条約ニ本邦
人入國自由ノ原則ヲ規定セルヲ以テ若シ不幸ニシテ斯カル
法案ヲ見ル場合ト雖 regulated by existing treaties ト
スルハ反対ナリ provided for 云々ト修正スヘキモノナル
旨ヲ私見トシテ申述ヘ置キタリ其後國務長官ヨリ内密ニ送

付シ来レル同案關係部分ノ抜萃ヲ見ルニ法案ノ表題ハ To

prohibit coming of Asiatic labourers into the United
States and for other purposes トアリ原則トシテ總テノ
Asiatic 労働者ノ入國ヲ禁シ而シテ Asiatic aliens and
Asiatic labourers トハ本年一月二十七日附機密拙信ニ附
属甲五頁下段記載ノ地理的区劃ノ土民ヲ指稱スルモノナリ
ト規定シタル後ニ別電但書ヲ存シ更ニ其次ニ or to abridge
any rights guaranteed by treaty between the United
States and any foreign powers トアリ最後ニ本年三月二
十六日附公第五三三号送付ノ Burnett 案七頁十九行ヨリ二
十二行ニ至ル(但シ妻子ニ関スル規定ナシ)ノ除外例ヲ列
記セリ

惟フニ近来印度人排斥ノ声高ク近クハ加奈陀ニ於ケル印度
人入國拒絶ニ関スル紛争ノ起リタル一方ニ尚ホ本年秋ノ總
選挙ヲ控ヘ居ルヲ以テ加州始メ太平洋沿岸諸州選出議員等
ハ選挙区民ニ対スル立場上党略上ノ見地ヨリ斯カル運動ヲ
再発シタルモノナリト認メタル加州選出議員等ハ切ニ國務
長官及移民總監等ニモ運動シ居ル模様ナリ

本案ニ関シテ國務長官ニ対シ如何応答シ可然ヤ至急何分ノ

御電訓アリタシ

註一 一月二十七日珍田大使發機密信附屬甲五頁下段記載ノ
地理的区劃ノ土民左ノ通

Provided, That the term "Asiatic laborer" for all
purposes hereof shall be understood to mean a native
of any country or district, or island adjacent thereto,
situate east of a line composed of the Red Sea, the
Mediterranean Sea, the Aegean Sea, the Sea of Mar-
mora, the Black Sea, the Caucasus Mountains, the
Caspian Sea, the Ural River, and the Ural Mountains,
with the exception of Turkey in Asia;

2 珍田大使ハ三月二十六日附公第五三三号附屬ノ Burnett
案第七頁第十九行ヨリ第二十二行ニ至ル除外例左ノ通

Government officers, ministers or religious teach-
ers, missionaries, lawyers, physicians, chemists, civil
engineers, teachers, students, authors, merchants, and
travelers for curiosity or pleasure.

(別 電)

六月二十九日珍田大使發加藤外務大臣宛電報第二〇一号

亜細亞人労働者排斥法案ガ日支人ニ適用ナキ趣旨ノ修正案
第二〇一号 別電

(条文附設省略); but nothing in this act shall be
understood or held to include any alien whose immi-

gration into the United States is regulated by existing treaties or agreements as to passports;

China.

一九六 七月二日 加藤外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

亜細亞人労働者排斥法案ニ関シ本邦除外ヲ要
望スル旨國務長官ヘ申入方訓令ノ件

第一六四号

貴電第二〇〇号ニ関シ

帰化資格ノ有無ニ依リ原則トシテ入国上ニ差別ヲ設クルハ從來申進シタル通り帝國政府ノ主義トシテ容認シ能ハサル所ナルモ事實ニ於テハ斯カル規定ハ從來其例アルノミナラズ理論上日本人ノ帰化能力ハ尚最終的決定ヲ經サルヲ以テ幾分斟酌スヘキ点ナキニアラサルモ(以上貴官限り)地理的区劃ニヨリ原則トシテ本邦人ヲ他ノ亜細亞人ト一律排斥シ去ラントスル今回ノ案ハ更ニ明ニ日米条約第一条ニ違反スルノミナラズ全然「デパーチユワ」ニシテ将来ニ大ナル惡例ヲ貽スモノト認ムルニヨリ帝國政府ハ仮令貴電第二〇一号ノ如キ但書アリトスルモ根本ニ於テ之ヲ容認シ能ハサ

亜細亞人排斥法案中ニ日支土ノ三国除外ノ規定
挿入案ヲ國務長官ヨリ申越ニ付請訓ノ件

第二一八号

往電第二一二号ニ関シ其後詮議ノ結果ニ就キ再応國務長官ニ督促シタルニ七月十七日同官ヨリ労働事務大臣ノ提議ニ係ハル除外規定案文ナリトシテ with the exception of Japan, China and Turkey in Asia ナル文句ヲ地理的区劃ニ関スル規定中ニ挿入ノコトヲ申越タリ就テハ若シ本件議案自体ノ提出ヲ到底防止シ得サルモノトセハ飽迄右除外規定挿入維持ニ尽力セラレンコトヲ切望スル旨改メテ國務長官ニ申入レ可然哉御回訓アリタシ

一九九 七月十八日 加藤外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

亜細亞人排斥法案中ニ除外規定挿入ニ関シ回
訓ノ件

第一六九号

貴電第二一八号ニ関シ

貴見ノ通國務長官ヘ申入レラルヘシ

ルニシキ万一愈前記地理的区劃ヲ設定スルトセバ兩國間条約及善隣ノ關係ニ鑑ミ其区劃中ヨリ本邦ヲ除外スルコトヲ要望スル旨國務長官ヘ申入レラレタシ

一九七 七月八日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

亜細亞人労働者排斥法案ニ関シ本邦除外ノ要
望ヲ國務長官ヘ申入ノ件

第二一二号

貴電第一六四号ニ関シ國務長官ノ都合等モアリ漸ク七月八日同官ヲ往訪シ御電訓後段ノ趣旨ヲ申入レタル処國務長官ハ日本人ヲ排斥亜細亞人ニ包含セシムルノ意思ハ素ヨリ毫モ無之此点ハ諒トセラレタシト申述ヘタルニ付本使ハ此儀ハ無論好ク了解セルモ其原則設定自体カ日米条約第一条ト相容レサルモノトシテ異議ヲ唱フル所以ナル旨曩キニ Burnett 案ニ関スル舌代中ニ掲ケタル右条約案条項成立ノ沿革ヲモ反覆シ説明シタリ國務長官ハ之ニ対シ兎モ角十分考慮ヲ遂クヘキ旨ヲ答ヘ之ニテ引取りタリ

一九八 七月十七日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

二〇〇 七月三十一日 在本邦米国大使ヨリ
加藤外務大臣宛

米国ニ入国セントスル外國人ノ米国移民官ニ
対スル虚偽ノ証言ニ関スル米国政府ノ訓令等
送付ノ件

附屬書 右訓令等

EMBASSY OF THE
UNITED STATES OF AMERICA
Tokyo, July 31, 1914.

(八月四日接受)

No. 149

Your Excellency:

I have the honor to enclose a copy of a Circular Instruction addressed by my Government to its diplomatic representatives in various parts of the world, and in pursuance thereof to request that Your Excellency be so good as to call to the attention of the Imperial authorities concerned, the requirements of the Immigration Service as stated in the Instruction referred to, with respect to the testimony of aliens applying for admission to the United States, when examined by the immigration officials at the port of

entry.

I avail myself of this occasion to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(Signed) Geo. W. Guthrie.

His Excellency

Baron Takaki Kato,

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs,

Etc, etc, etc.

(附屬書) 米國政府ヨリ同國在外交官ニ宛テタタル訓令寫

IMMIGRATION LAWS

Department of State,

Washington, June 18, 1914.

To the Diplomatic Officers

of the United States.

Gentlemen :

The Department is informed by the Secretary of Labor that the Bureau of Immigration of his Department has often encountered considerable difficulty in its efforts to enforce the immigration laws by reason of the proclivity of some aliens applying for admission to make false statements, and that this

of the United States that aliens shall testify truthfully when examined at our ports.

The Department desires that you bring this matter to the attention of the proper authorities of the government to which you are accredited in order that their citizens and subjects may be advised of the requirements of the Immigration Laws of the United States and of the danger resulting from violation thereof involving not only the possibility of prosecution in the United States courts but exclusion generally. I am, Gentlemen,

Your obedient servant,

For the Secretary of State:

ROBERT LANSING.

二〇一 八月八日 加藤外務大臣ヨリ
在本邦米國大使宛

米國ニ入国セントスル外国人ノ米國移民官ニ

対スル虚偽ノ証言ニ関スル米國政府ノ訓令寫

受領ノ件

通送第八八号

以書翰致啓上候陳者貴國ニ上陸セントスル外国人ノ証言方

五 米國移民法ノ排日性 二〇一 二〇二 二〇三

practice is due in part to the natural desire of aliens who are not satisfied of their own eligibility to enter the country and to a desire to make a good showing or to keep undisclosed facts of importance, but that to a considerable extent it is the result of coaching and other suggestions made to them by irresponsible agents, runners and others in the country whence they come, and possibly on board of vessels and even at our stations, by copassengers who have had experience with immigration officers.

Under section 24 of the Immigration Act, falsely testifying before an immigrant inspector is constituted perjury; while under section 2 of the said Act, the immigration officials are required to exclude aliens who admit the commission of a crime or misdemeanor involving moral turpitude, in which classification perjury has been included.

The Secretary of Labor also informs this Department that it occurs to his Department that a proper and fair enforcement of the law might be materially aided if due publicity could be given in foreign countries to the requirement of the Immigration Service

ニ関シ貴國政府ヨリ在外貴國外交官宛ノ訓令寫御送付旁客月三十一日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候右御回答旁玆ニ重ネテ閣下ニ向シテ敬意ヲ表シ候敬具

註 添附ノ英訳文ヲ省略ス

二〇二 十月二十五日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國上院「バーネット」移民法案握潰ノ件

第三七五号

米國国会ハ十月二十四日閉会セリ「バーネット」移民法案及囚人作品輸入禁止法案モ今期議會ニ於テ上院ノ握潰シタル法案中ニ在リ

二〇三 十二月十七日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

「バーネット」案ト同様ノ移民法案今期議會

ニ提出セラレタルヤノ報道ニ関シ問合ノ件

第三五一号

紐育電報ニヨレハ前期議會ニテ上院ノ握リ潰シトナレル「バーネット」案ト同様ノ移民法案今期議會ニ提出セラレタルヤニ見受ケラルル処果シテ然ラハ右ハ下院原案上院修

二六五

正案ノ何レニヨルモノナリヤ大要電報アレ

二〇四 十二月十八日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

上院全院委員会ハ「バーネット」移民法案ニ
字句ノ修正ヲ加ヘ尚討議繼續中ナル旨報告ノ
件

第四六九号

貴電第三五一号ニ関シ上院ハ前会期ヨリノ引続キトシテ曩
ニ上院移民委員会ノ修正セル「バーネット」案ヲ十二月九
日其ノ全院委員会ノ議ニ附シ委員会修正部分ニ対シ字句ノ
再修正ヲ加ヘタルカ更ニ討議ヲ繼續スヘク諒方試験規定削
除ニ関スル動議ヲ提出セラルル模様ナリ

二〇五 十二月十八日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米国上院ニ於テ審議中ノ「バーネット」移
民法案ノ字句訂正方ニ付國務長官ト会談ノ件

第四七〇号

往電第四六九号ニ関シ十二月十日ノ委員会ニ於テ本年三月
三十一日附機密第一号附属丙号第七頁十五行ニ関シ

事項六 日米仲裁裁判条約ノ有効期間延長ニ関スル協約

二〇六 二月二十二日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国上院ハ日米仲裁裁判条約更新協約ヲ協賛
シタルニ付請訓ノ件

第六五号

二月二十一日上院ハ日米仲裁裁判条約(四十一年)更新協
約ニ協賛ヲ与ヘ同時ニ西国英國諸威瑞典葡萄牙瑞西伊太利
ノ七ヶ国ノ協約ニモ協賛ヲ与ヘタリ

右ニ関シ國務長官ヨリ何等交渉アルヤモ計リ難キ処日米仲
裁裁判条約(四十一年)ノ消滅時期經過後ノ今日ナルヲ以
テ特別ノ措置ヲ要スルコト考ヘラル、ニ付何分ノ儀御電
訓乞フ

二〇七 二月二十五日 牧野外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

各国ノ対米仲裁裁判条約更新協約ノ取扱方ニ
関シ問合ノ件

附記一 日米仲裁裁判条約更新協約御批准奏請ニ関シ枢

六 日米仲裁裁判条約ノ有効期間延長ニ関スル協約 二〇六 二〇七

treaties or ト読上クヘキヲ何故カ(單純ナル読ミ誤ナリ
ト認メラル)削除読上ケ異議ナク可決セラレタル結果下院
通過案ニ復シタルコトナレリ依テ十二月十一日本使ハ國
務長官ヲ往訪シ右ノ事實ヲ指摘シ協議ノ結果國務長官ハ即
時 unless otherwise provided for by existing treaties,
or by passport agreements ト修正方ヲ希望スル旨ノ書
翰ヲ上院移民委員長ニ送り次テ談合ヲモ遂ケタリ尚右ノ外
本年二月二十七日附機密第四号拙信附属乙号舌代第二ノb、
cニ付テモ國務長官ニ注意シ置ケリ

註1 珍田大使ノ三月三十一日附機密第一号附属丙号
「バーネット」移民法案 第七頁第十五行左ノ通
unless otherwise provided for by existing treaties or
agreements as to passports.

2 舌代第二ノb、cニ付テハ前出珍田大使三月十三日發
電報第八七号ノ参照

密院書記官長意見

二 「条約ノ更新ニ就イテ」

第七二号

貴電第六五号ニ関シ今回上院ニ於テ協賛ヲ与ヘタル英國外
六ヶ国ト米國トノ更新協約ハ何レモ既ニ時機經過後ナルコ
ト恰カモ日米更新協約ト同様ナリト思考セラルルニ付他ノ
諸國ニ於テ異議ナキ以上ハ此際客年往電第一九八号ノ見解
ヲ強テ主張スルコトナク「ブライアン」氏ノ解釈通り帝國
政府ニ於テ客年六月二十八日調印ノ日米更新協約ノ御批准
ヲ奏請スルコトニ詮議致スヘキカト考フ就テハ上記諸國ト
米國トノ間ノ更新協約ニ関スル模様電報アリタシ

(附記一)

日米仲裁裁判更新協約御批准奏請ニ関シ密院書

記官長意見

本件ニ付二月二十五日(大正三年)密院書記官長ノ意見ヲ質シ
タル処(書記官列席)本更新協約ハ素ト大正二年八月二十四
日ヨリ向フ五年間有効ノ旨条約第一条ニモ記載シアリテ右